

＜あれから30年、7月27日は南極犬ぞり横断出発の日＞

南極犬ぞり横断30周年記念

『THINK SOUTH FOR THE NEXT』プロジェクトがスタート

＜リリース概要＞

- 1.南極に関連するネクストアクションを展開する『THINK SOUTH FOR THE NEXT』プロジェクトが**7月27日スタート**
- 2.7月25日(木) **公式サイトがオープン** (URL:<https://www.think-south.com>)
- 3.1989年南極を犬ぞりで**世界初横断した冒険家6人が来日**。11月4日(月・祝)北海道仁木町で講演会、11月10日(日)東京国際フォーラムでシンポジウム、11月11日(月)都内公立中学校で特別授業を開催！詳細は近日発表
- 4.30年前にフランスで制作された**ドキュメンタリー映画「Trans-Antarctica Expedition」を日本初上映**
- 5.**各種メディアとのタイアッププロジェクト**も計画中



THINK SOUTH FOR THE NEXT実行委員会(株式会社ゴールドウイン、株式会社DACホールディングス)は、環境と平和の大切さ、チャレンジスピリットの重要性を次世代につなげていく目的で『THINK SOUTH FOR THE NEXT』プロジェクトを2019年7月27日(土)にスタートいたします(初年度は2020年3月3日(火)までの予定)。

今から30年前の7月27日、日本を代表する冒険家の舟津圭三氏をはじめとする世界各国の6人の冒険家が、世界初となる南極犬ぞり横断へと出発しました。『THINK SOUTH FOR THE NEXT』は当時彼らが考え、世界に発信した現代社会の問題に改めて注目し、次世代へ継承していこうというプロジェクトです。

今後は彼ら6人によるトークイベントや当時のドキュメンタリー映画を日本初上映するほか、彼らのスピリットを次世代につなぐため各種メディアとのタイアッププロジェクトなどが随時立ち上がる予定です。詳細は下記公式サイトから発信します。

『THINK SOUTH FOR THE NEXT』公式サイト ※2019年7月25日(木)オープン

<https://www.think-south.com>

※公式サイトでは本プロジェクトの企画背景や今後の活動予定、南極の現在の様子などを随時更新します。

また、今秋日本初公開となるドキュメンタリー映画「Trans-Antarctica Expedition」の予告動画も配信する予定です。

◆◆◆本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先◆◆◆

P R 事務局 株式会社DACホールディングス内

TEL:03-6860-3952/FAX:03-6860-3925/MAIL:kawakami@po.dac-group.co.jp

[担当] 河上 (MOBILE:090-9107-4794)



『THINK SOUTH FOR THE NEXT』立ち上げの背景

今から30年前の1989年7月27日、地球上で唯一国境をもたない大陸である南極で、環境と平和を訴えるメッセージ「THINK SOUTH」を胸に、犬ぞりによる初の南極大陸横断の冒険がスタートしました。メンバーは世界6カ国(アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・中国・日本)で編成された南極大陸横断国際隊。彼らは12月11日の南極点到達を経て1990年3月3日に約4000マイル(約6400キロメートル)を踏破し、無事全員がゴール。当時は多数のメディアがその偉業を取り上げると同時に、当時注目され始めた環境問題についても報道しました。

本プロジェクトを後援している国立極地研究所の白石名誉教授は「30年後の現在では地球温暖化の影響で、彼らが犬ぞりで走ったラーセンB棚氷も消滅しています」と警鐘を鳴らします。南極地域は、その利用を平和的な活動や科学調査などに厳しく制限する『南極条約』に守られていますが「気候変動の波には抗えません。地球上で起こる気候変動の現象はまず極地で発生するといわれています」(白石名誉教授)。

『THINK SOUTH FOR THE NEXT』プロジェクトではこうした現状をより多くの人に発信し、環境問題とそれを守るための平和について考えてまいります。

■ 『THINK SOUTH FOR THE NEXT』プロジェクト概要

<プロジェクトタイトル>

『THINK SOUTH FOR THE NEXT』

<公式サイト> ※2019年7月25日(木)オープン

<https://www.think-south.com>

<主催>

THINK SOUTH FOR THE NEXT実行委員会(株式会社ゴールドウイン、株式会社DACホールディングス)

<協賛>

日本ゴア株式会社

<後援>

国立極地研究所(申請中)、文部科学省(申請中)

■ <今後の主なスケジュール>

7月25日(木) / 「THINK SOUTH FOR THE NEXT」公式サイトオープン

↓

①11月4日(月・祝) / 北海道仁木町にて講演会

↓

②11月10日(日) / 東京国際フォーラムにてシンポジウム開催

<記者発表会 / ドキュメンタリー映画Trans-Antarctica Expedition日本初上映 / トークイベント>

↓

③11月11日(月) / 都内公立中学校にて特別授業

※上記①～③全てに舟津氏含む6人の冒険家も登壇いたします。

◆◆◆ 本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先 ◆◆◆

P R 事務局 株式会社DACホールディングス内

TEL:03-6860-3952 / FAX : 03-6860-3925 / MAIL : kawakami@po.dac-group.co.jp

[担当] 河上 (MOBILE : 090-9107-4794)



▼1989年南極を犬ぞりで世界初横断した6人の冒険家による日本でのイベント開催が決定！

『THINK SOUTH FOR THE NEXT』プロジェクトのメインイベントとして、南極犬ぞり横断を達成した唯一の日本人である舟津圭三氏を含む6人の冒険家の日本集結が決定！それを記念し、30年前にフランスで制作・上映されたドキュメンタリー映画「Trans-Antarctica Expedition」(90分)を日本で初上映する予定です。

<<南極大陸横断国際隊 6名のプロフィール>>

※年齢は2019年7月27日時点のものです。



ウィル・スティーガー(USA 74歳)

米国の著名極地探検家、教育者。現在はミネソタ州イーラー郊外の広大な自然の中で「スティーガーウィルダネスセンター」を運営。青少年、教育者等向けに環境教育を実践しながら、地球温暖化問題の解決に向けて様々な取り組みを行っている。



ジャン・ルイ＝エチエンヌ(フランス 72歳)

医者という立場から、厳しい環境における人体の医学的問題や心理的な影響に関心を持ち、研究のためにヒマラヤやグリーンランド、パタゴニアへの登山遠征に参加。科学的、教育的立場から北極・南極への遠征に参加する一方で、地球環境保全という視点でメディアを通じて長年レポートを発信している。



ヴィクター・ボヤルスキー(ロシア 68歳)

ロシア国家地理学会の極地委員会会長、アメリカ地理学会のメンバー。1998年設立された北極・南極博物館では初代館長就任。2005年から科学者や観光客が滞在できるフィールドキャンプ「ボルネオ・アイスキャンプ」を運営。ロシアの極地探検家、水文気象学の専門家として数々の賞を受賞している。



チン・ダホ(中国 72歳)

蘭州大学で雪氷学の博士号を取得。その後数ある中国、国際学会のトップを務めてきた。IPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)議長を務め、アル・ゴア氏とIPCCがノーベル平和賞を受賞した際のメンバーでもある。



ジェフ・サマーズ(イギリス 68歳)

世界的名極地研究家であり、1988年グリーンランド縦断に続き1990年南極大陸横断国際隊に参加。極地ガイドとしては北極点、南極点、北磁極への遠征のガイドとして数多くの遠征を行ってきた。数々の極地探検と教育への貢献に対して大英帝国の勲章の叙勲を受けている。



舟津圭三(日本 62歳)

1956年大阪生まれ。米国ミネソタ州・アウトワードバウンドスクールで野外教育のプログラムを学び、ミネソタ州、モンタナ州、アラスカ州等で若者や一般社会人への野外教育を実践。

1988年グリーンランド犬ぞり縦断後、南極大陸横断国際隊に参加。その後は米国アラスカ州に移動し中長距離犬ぞりレースとして活躍。3大長距離犬ぞりレースの全てで新人賞を受賞するほか、アウトドア教育の一環として冬のアラスカでの犬ぞりキャンプも実施。

1990年朝日スポーツ賞、テレビ朝日ビッグスポーツ特別賞。2015年からは北海道仁木町NIKI Hills ビレッジにてワイナリー、ガーデン、森のプロジェクトに参画している。

▼各種メディアとのタイアッププロジェクトも計画中

「THINK SOUTH」を合言葉に世界初の偉業を成し遂げた南極大陸国際横断隊のスピリットを次世代につなぐため、各種メディアとのタイアッププロジェクトなどが今後立ち上がる予定です。詳しくは公式サイトにて随時発信してまいります。

◆◆◆本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先◆◆◆

P R 事務局 株式会社DACホールディングス内

TEL:03-6860-3952/FAX : 03-6860-3925/MAIL : kawakami@po.dac-group.co.jp

[担当] 河上 (MOBILE : 090-9107-4794)